

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2013 年 10 月 23 日(水)

報告番号： 乙 第 2059 号	氏名： 長井 美穂	
論文審査 担当者	主査 教授 菅野義彦 印	副査 教授 水口純一郎 印
		副査 教授 坪井良治 印
<p>審査論文の題目： Serum levels of BAFF and APRIL in myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-associated renal vasculitis: association with disease activity. (MPO-ANCA 関連腎血管炎における血清 BAFF および APRIL 濃度の検討:疾患活動性との関連について)</p> <p>著 者： Miho Nagai, Kouichi Hirayama, Itaru Ebihara, Homare Shimohata, Masaki Kobayashi, and Akio Koyama.</p> <p>掲載誌： Nephron Clinical Practice 118:c339-345 (2011)</p>		
<p>論文要旨：</p> <p>抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎における ANCA 産生機序は明らかではないが、近年 B 細胞の成熟分化における B cell activation factor belonging to the TNF family (BAFF) の役割が注目されている。MPO-ANCA 関連腎血管炎 37 例を対象として活動期、非活動期、細菌感染時に血清 BAFF 濃度および BAFF と受容体を共有する a proliferation inducing ligand (APRIL) の血清濃度を測定し、対照群 (非血管炎) 20 例と比較検討した。血清 BAFF 濃度は血管炎群の活動期に有意な上昇を認めたほか ANCA 抗体価と有意な相関を認めたが、APRIL 濃度にはこの傾向は見られなかった。また血管炎の活動性に関する ROC 曲線解析でも白血球数、CRP など他の指標に比べて特異性に優れていた。以上より ANCA 関連腎炎において血清 BAFF 濃度は疾患活動性の指標として有用である可能性が示唆された。</p>		
<p>審査過程：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANCA 関連腎血管炎における感染症合併の特徴を適切に説明することができた。 • 本研究における疾患の診断法、疾患活動性の評価法について明確に説明することができた。 • ANCA 関連腎血管炎の炎症および組織障害において好中球および他の細胞の関与について、推測を含めて適切に説明することができた。 • 本研究結果において BAFF と APRIL の動態が異なった理由について説明することができた。 • 臨床的に多用されている MPO-ANCA 抗体価に比して、血清 BAFF を測定することが疾患活動性の本質に迫り、治療への方向性を示しうることについて本研究の臨床的意義を含めて説明できた。 		
<p>価値判定：</p> <p>本研究には比較的まれな疾患である ANCA 関連腎血管炎のさまざまなステージにおける BAFF、APRIL の変動を示した国際的にも貴重なデータが含まれる。また原因の明らかになっていない同疾患の発症機序について治療の方向性を含めた仮説が適切に検討されており、学位論文としての価値を認める。</p>		